

## 第 3 回委員会における指摘事項等への対応について

番号	意見・指摘事項等	対応
1	国内広域移動の分析について、どういう交通手段を使っている人が、どういう回り方をしているかなど、クロス分析が必要。東北や北関東と連携して山形に連れてくるなど、広域での連携についての分析を深める必要がある。	資料 1 - ② 2～4 ページを参照
2	交通は、何かの目的があって移動するということであり、目的側の需要がどうなっているかを考えることも必要。例えば、観光地の入込客数のデータで「その他観光地」が増えているが、なぜなのか。	資料 1 - ② 5 ページを参照
3	高価格帯の客層と低価格帯の客層では、ニーズや行動パターンが全く異なるが、リゾート列車やクルーズ船の受け入れを見ていると、受け入れ側が客層に合ったサービスを提供できておらず、客層の分析が必要。	客層の分析に取り組み、施策に反映させていく
4	山形と関係がある地域の交通整備がどうなっているかを調べた方がよい。滑走路の延伸、増設やアクセス鉄道高速化に取り組んでいる成田空港をどう使うか、仙台はバスターミナルの計画があり、仙台の優位性が上がったときに山形はどうするかなど。	資料 1 - ② 6 ページを参照
5	貨物流動について、山形県発着だけでなく、通過貨物についても把握し、取り込んでいくことが必要。2024年問題に関連して、乗務員や車両を交代させるための拠点整備を行うことも考えられる。	資料 1 - ② 7 ページを参照
6	観光は高付加価値化に注力しており、交通に関しても生産性向上、高品質・高付加価値化が必要ではないか。運転手不足についても生産性が向上すれば、労働環境の改善につながるのではないか。	第 5 章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱 2 の施策に反映
7	現在の空港の最大の政策課題は人材不足であり、地元企業にヒアリングし、現状を把握すべき。地方空港においては、グラハン業務を地元企業が担っていることが多く、空港関係事業の課題解決、人手不足の解消は、地場産業の活性化、人手不足解消につながる。観光 GDP のような考え方が重要。	資料 1 - ② 8 ページを参照 第 5 章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱 2 の施策に反映
8	観光のインセンティブについても、外国航空会社に与えるのではなく、空港や観光産業などの地場産業に向けた方が、納得性が高い。	第 5 章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱 2 の施策に反映

### 第3回委員会における指摘事項等への対応について

番号	意見・指摘事項等	対応
9	庄内地域は米国等のインバウンドが多いとのことだが、成田乗り継ぎなのか、羽田乗り継ぎなのか分析が必要。羽田便が5便化した現状においては、羽田乗り継ぎが重要であり、羽田便を活かす方策を考えるべき。	資料1-② 9ページを参照 第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱1の施策に反映
10	山形空港と庄内空港の両方でインバウンドを頑張るといえるが、客が分散してしまい、使い勝手が悪くなる懸念される。仙台空港や他の空港と組んで周遊ルートを作るとか、仙台空港の需要を取り込むといった戦略もあっていいのではないか。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱3の施策に反映
11	新幹線整備や米沢トンネル整備を進めれば、首都圏方面は新幹線が主体になると考えられ、空港との客の取り合いにならないか。それで山形空港の維持は大丈夫なのかということが懸念される。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱3の施策で対応していく
12	奥羽新幹線と羽越新幹線の両新幹線の整備については、若干取り合いも起こる中で、B/Cについて1.0を確保できるのか疑問。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱3の施策で対応していく
13	米沢トンネルについて、効率的・効果的に進めるためには、福島側としてどういう課題があるのか整理する必要がある。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱1の施策に反映
14	赤字ローカル線問題は、もう少し丁寧にデータを追う必要がある。	資料1-② 10～12ページを参照 第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2及び柱3の施策に反映
15	立地適正化について、どこの地域がどういう立地適正化計画を持っていて、人口をどのくらいにしていきたいかなど、着地側の情報を加えること。	資料1-② 13～15ページを参照 第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2及び柱3の施策に反映
16	立地適正化計画の居住誘導区域と連携しつつ、優先的にどのエリアで公共交通の基盤を強めていくかを議論し、残すべきところは残していくということを共有していくことが重要。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2及び柱3の施策に反映
17	自家用車やスクールバスでの送迎が増えており、若いうちから地域公共交通を利用する機会を増やしていくことが重要。高齢者も免許返納して、いきなり公共交通を使えと言われても対応できない。例えば、イベント的に公共交通を利用する機会を設けて誘導していくような施策も必要ではないか。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱3の施策に反映

### 第3回委員会における指摘事項等への対応について

番号	意見・指摘事項等	対応
18	山形という条件不利地域では、交通の利便性だけでは競争に勝てないため、例えば、公共交通を使うことでカーボンニュートラルに貢献できる仕組みを作るなど、利便性や効率だけではない移動に対する意識変化をもたらすような取組も必要ではないか。待ち時間の過ごし方を考えるような施策もあり得る。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱3の施策に反映
19	海外の個人客が増えており、その問い合わせのほとんどが交通関係。路線があることは理解しているが、安全かどうか不安を感じている模様。県からの後押しにより、安心・安全であることを示していくと利用されていくのではないか。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2の施策で対応していく
20	公共交通について、県でデータベースを揃えているが、そのデータをどう活かしているかが見えにくい。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2の施策で対応していく
21	道路も整備されてきて、特に、無料区間となれば、今までの道路はどうするのか。国道が県道に移管されること、老朽化対策も含めて、負担が増えないか。	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2の施策で対応していく
22	課題の中には直近で対応が必要なものもあり、将来像だけでなく、ロードマップを作ることも考える必要があるのではないか。	第5章にて重点的・短期的な取組と中長期的・継続的な取組に整理
23	全体として、総花的になってしまうのは仕方ないが、どれを優先的にやっていくのか、優先順位とまではいかななくても踏み込んでいい。	
24	優先順位を10月までに決めることは難しいので、今後の検討課題として報告書に書くなど、書きぶりを検討すること。	
25	全てやれば本当にいいが、それをやることによって何を目指しているのか、単に交通ということだけではなく、地域の経済や生活面でどれだけ貢献するのかをもう少し強く打ち出す必要がある。	第3章山形県が目指す交通の将来像に反映
26	離島航路は入れなくてよいのか	第5章将来像の実現に向けて取り組む施策の柱2の施策に含まれる（運航費用の支援を実施）